

令和6年度 第4回 生駒市公益活動アドバイザー会議録

開催日時 令和7年3月17日(月) 14:00～16:00

開催場所 生駒市市民活動推進センターららポート研修室

出席者

(アドバイザー) 佐藤由美氏、土坂のりこ氏、山納洋氏(五十音順)

(事務局) 市民活動推進センター所長 大垣、主幹 佃、係員 西田、
コーディネーター池邨、宮平、森村

(傍聴者) なし

案件

- 1 採択事業の事業報告及び助言
- 2 ららポート主催事業の報告
- 3 次年度補助金の要項について
- 4 その他

以下、発言要旨

案件 1 採択事業の事業報告及び助言

(1)正田耕一氏

【申請者から事業の報告】

(アドバイザー) 実施してわかった課題の中に、継続運営にはある程度の人数が必要ということがわかったと記載されています。この継続の仕方として、今、どのようなものを描いていらっしゃいますか。

(申請者) 作業に関しては人手のいる作業があります。積極的に人を集めることを考えていきたいです。ある程度、お金もかかりますので会員みたいな形でもいいのかなと思っています。例えば、里山遊びの会といった形で会費を集め、会員の方と作業を進めたいです。

(アドバイザー) 整備作業をやっていきたい方とイベントがあったら参加したいという方は、どちらが多かったのですか。

(申請者) 整備作業で人を集めることが難しいです。やってみたら面白いのですが。イベントに参加された方に少し木の枝の片付けなどをしてもらい、焚き火をするといった形にすると楽しんでもらえます。しかし、整備を前面に誘うと集まってもらいにくいと感じています。

(アドバイザー) ヨガや料理教室といったイベントをしてくださった方とはどのように繋がっていったのですか。もう1つ、こういった一緒に里山を盛り上げてい

こうという人たちはどんな形で今後増えると考えておられますか。

(申請者) 私は本業の農業で青空市やマルシェのイベントによく出ています。そんなところで声掛けしています。

(アドバイザー) 口コミでもっといろいろな人たちにも広がっていくかもしれないですね。

(申請者) そうですね。私がこれをしてくださいと言うのではなくて、何か一緒にしましょうという形で広げていきたいです。

(アドバイザー) 1か所は地主さんも自分で動かれるようになったのですね。他にももう少し別の地主さんが現れたりとか、一緒にやろうという仲間が増えてきたりはしないのでしょうか。

(申請者) 保全には維持費も人手もかかりますので、活動を広げていくというよりはこどもさんとも楽しみながら維持をしたいと思っています。

(アドバイザー) 例えば整備した里山で何かを植えるとか、それをなりわいに繋げるみたいなことはあり得ると思いますか。

(申請者) あり得ると思います。私が保全活動をしたきっかけは、イノシシです。畑の真横の藪にイノシシの巣ができて畑を荒らし回りました。これがスタートなので整備をすることで獣害が減ることが本業の方の一番のメリットにはなります。

(アドバイザー) では、同じ農業をしている人は運命共同体として作業に参加してもらえるのではないのでしょうか。

(申請者) 近くに農業されている人はいないですし、農業をする人を増やすことは難しいと思います。自給自足やスローライフといったイメージとは違って、農業は忙しいです。本気で農業をやりたい人がいれば、場所も一緒につくっていききたいと思います。

(2)カラフルマインド

【申請者から事業の報告】

(アドバイザー) まず小学校1名が平日クラブに週1回つながったということですが、どのように問い合わせがあったのですか。

(申請者) 広報いこまちを見て週末クラブに来られました。保護者と一緒にアートワークをして、平日クラブにつながりました。

(アドバイザー) 他の連携団体ご紹介くださるようなネットワークをつくってけると良いですね。

(アドバイザー) 最終的に目指す姿は何でしょうか。

(申請者) 平日クラブを活性化させて、週2日は学校から距離を置いている子たちが、気兼ねなく自分を表現できる場をつくっていききたいです。学校から距離を置く理由が多様であることがわかりました。この活動は、どちらかといえば静かに自己表現をしたいお子さんに合っていると思いますので、

その特徴をもっと表現して伝えていく必要があると思っています。

(アドバイザー) プログラムがあったほうがいいのか、自由に活動していいのかは明確にしておいたほうがいいのかもかもしれませんね。

(アドバイザー) 1,000円という参加費の妥当性はどうですか。継続するには、持ち出しを減らすことも必要です。

(申請者) 場所代と移動にかかる費用がかさんでいます。歩いて行ける距離でクラブを開いて交通費を減らし、参加人数を増やしていきたいです。

(アドバイザー) 認知の広がりには時間がかかるということですね。ご自身の活動とこの補助金の性質はマッチしていると感じましたか。

(申請者) 補助があることも実際にアドバイスをいただいたことも、両方ありがたいと思いますし、これがあったから継続できた1年だったと思います

(アドバイザー) 何となくどんなお子さんや家族にこのニーズがありそうだという感覚はおもちですか。

(申請者) 静かに自分のペースで自分のやりたいことをしたいお子さんが合っていると思います。また、シュタイナー教育に興味をお持ちの方も大阪から来られました。

(アドバイザー) そうすれば、やはり週末クラブにそういう子たちが来たくなると言うようにしておかないと、平日クラブにつながりません。難しいですが、それを視野に入れることが必要ですね。また、シュタイナー教育を打ち出して、広域から集めてくるのか、ちょっと学校から距離を置いている子を対象にするのかもクリアにする必要があるでしょうね。

(申請者) そうですね。ありがとうございます。

(3)事業の総括

(土坂氏) お二人とも助言を非常に素直に受け入れていただいて、自身のやり方をトライアンドエラーされ、課題にたどり着かれたという感じがしました。

(山納氏) お二人には、明確にやりたいことがあるのでしょうか。壁があってもひるまないのはすごいことです。

(佐藤氏) ららポートの皆さんがサポートをされて、目的が明確化したような感じがします。ららポートの次の段階としては、どうやって根づかせるのかを考えながら継続支援されたらいいなと思います。先日、過去にこの補助金を2年間受けた方とお会いしたら元気に活動を継続されていました。このように成長していけるのであれば、立ち上げ期に有意義な支援であるということです。

(土坂氏) 報告をお聞きする感じでは、自分の領域が広がっていったいて、私益と公益がグラデーションを描きながら続いている道筋は見えていると思います。この補助金がそのようなスタート期からでも使えることは意義深い

ということを拝見させていただきました。

(山納氏) 公益性を実現しようというところから動く方々がもっと増えたほうがいいと思います。自分のやりたいことを公益性と結びつけて考えられる人たちを増やすために講座を開き、補助金制度を連動させていくことが必要ではないでしょうか。

(佐藤氏) 個人のやりたいことや当事者性からスタートする公益性もあるはずです。活動する中でネットワークができていくと公益性が増していく。同じような志のある人が集まれるようなきっかけづくりが大事だなと思います。ライドシェアのように他の課でも地域課題から始まる活動をつくっておられるところはあるはずですので、役割分担という面から考えると個人から発する問題意識を公益まで引き上げることは大事なことだと思います。

(山納氏) 1人で考えて1人で立とうとするのではなくて、3人か5人が集まって喋って、問題意識を持つことで実現性に向けたブラッシュアップが起きるように思います。申し込み前に話し合ってもらえたら、もっと効果的になってくるのではないかと思います。

(佐藤氏) 生駒市の人口規模からすると、同じテーマで同じ思いを抱いている人を見つけることが難しいのかもしれないですね。競合するのではなく、志を話し合える交流の場があればいいのではないのでしょうか。

(土坂氏) 少し気になるのは、連携の捉え方です。イベントの講師としての場をつくるといったことでとどまらず、深めていく必要はありますね。

案件2 ららポート主催事業の報告

【事務局から報告】

(山納氏) 好評だったんですね。

(佐藤氏) 参加者はすでに活動されている方か、初めての方々か、どちらが多かったんですか。また地縁型とテーマ型はどちらでしたか。

(事務局) 初めての方が多かったです。地縁型とテーマ型については、様々でした。また、個人のやりたいことを広げたい方と、地域課題の解決を目指しておられる方も両方いらっしゃいました。

(山納氏) せっかく講座に参加された方とどうつながり続けるかを考えたときに、補助金の制度しか紹介できないのは残念な気がしますね。

(土坂氏) 最近どうですかって定期的に声を掛ければいいと思いますよ。

(佐藤氏) 講座の紹介をしたり、他の課につないでみたりするのもいいですね。

(山納氏) マチソワの活動では、ふらっと訪れてもらえるので状況がわかります。ららポートも、近くにいてもらえる仕掛けがいるのではないのでしょうか。

(土坂氏) 自分たちだけでなんでもできますという方以外は、また来られることが

多いと思います。

(佐藤氏) 来やすい場になることが必要ですね。同窓会的な講座や報告会のようなことをして、うまくいかないなと感じている人に地域資源をつなぐ場があればいいですね。

(土坂氏) 既存団体につながるという段階にいけることも大切です。生み出すだけが形ではないのですよね。

(事務局) 1人の人にどうネットワーク支援をしていけるかと、公益性と自分がやりたいことを結びつける機会を提供することは今後も目標としていきたいです。

案件3 次年度補助金の要項について

【事務局から説明】

(佐藤氏) 経費で「要相談」になっている部分はその都度相談に応じていくということですね。

(事務局) 活動が多様ですので、全てを記載することが難しくそのような書き方になりました。

(佐藤氏) 有償ボランティアも前回の会議で課題になっていましたが、1回2時間当たり1,000円程度となっていますね。

(土坂氏) 報償はどの程度なら公費で出せるかということですので、適切に算出されたと思います。

(山納氏) 採択決定後の留意事項の専門家等によるアドバイスの部分は、専門家は市が無償で紹介するということですので追記が必要だと思います。

(事務局) わかりました。

(佐藤氏) 「事業の継続に向けて」のチェック欄は、まだ活動を始めていない人には難しいのではないのでしょうか。取組の例として記載しておいてはどうですか。

(事務局) わかりました。

(土坂氏) 財源をどうするかということと、事業を広く理解してもらうために取り組むことは違うものですので別に記載できるほうがいいですね。この部分は申請者の個性が見えるところでもあると思います。

(事務局) わかりました。

(土坂氏) 今回、2件の事業報告書はサポートされましたか。

(事務局) はい。結果を伝える際に何を書けばいいのか困っておられるようでした。

(土坂氏) おそらく自分だけで、報告書を1年で書けるようになるのは、なかなか難しいと思います。次につながる報告書であるためには、実施してわかった課題を明確にして、その課題にどのように取り組んでいきたいのかが書けているといいですね。そうすれば1年間の報告だけではなく、これからにつながります。

- (山納氏) 今年度実施してわかった課題とシンプルに書くのはどうですか。
(事務局) 事業の成果と記載せず、課題という言葉に変更します。

案件4 その他

(1) 市民活動推進センター成果指標について

【事務局から説明】

- (土坂氏) 対応件数は施設利用者への全ての対応です。鍵の貸し借り、電話への応答から道を聞かれるといったことも対応です。相談とコーディネートはこれとは別で、それぞれ重複せずにカウントしています。佐藤先生がおっしゃるように市民との接点を数値化できているかというところが一番重要であると考えています。
- (事務局) わかりました。私たちも市民活動支援を数値化していきたいと思います。相談は項目ごとにわけておられますか。
- (土坂氏) そうですね。相談件数は1件でも、コーディネート相談は複数回の対応が発生します。このため、相談とコーディネートは別でカウントし、コーディネートは情報提供数、仲介数、成立件数を数値化しています。
- (佐藤氏) 相談の中の内訳はカウントするが、相談は1件として数えて、コーディネート件数が積みあがるということですね。生駒市の場合は公営ですから、市役所の他の課と話をしたとか、他の課につないだということも残しておいてはどうですか。行政の他の部署とつなげるのは、公営の施設だからできることですね。
- (土坂氏) おっしゃる通りだと思います。
- (山納氏) 市民活動推進センターが、どれだけの市民活動の推進をはかるのか、成果指標はありますか。生まれた活動数などは数えられないものでしょうか。
- (事務局) 活動数を数えようとしたときもありましたが、講座参加者を追いきれず、活動を始めている人も参加されるので難しいように感じます。
- (土坂氏) やはり市全体の取り組みと市民活動推進センターという拠点が掲げる指標は少し違うように思います。センターだけで全ての市民活動の推進は担いきれませんか、インフラとして何を提供できたのかというところをしっかりと指標として追っていければいいと思います。
- (佐藤氏) 来館者数や講座参加者数、相談数、ホームページのビュー数といったことですね。
- (事務局) わかりました。

(2) その他

【事務連絡】